



「ファイナンシャル ウェルビーイングと金融リテラシーに関する意識と実態調査」(2024年)より

年収が高いのにファイナンシャル ウェルビーイング度が低い人はどんな人？

年収が低いのにファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人はどんな人？

2024年5月
三井住友信託銀行
三井住友トラスト・資産のミライ研究所

- (1) 調査名: 「ファイナンシャル ウェルビーイングと金融リテラシーに関する意識と実態調査」(2024年)
- (2) 調査対象: 全国の18～69歳 ただし関連業種(金融、調査、マスコミ、広告)従事者を除く
- (3) 調査方法: WEBアンケート調査
- (4) 調査時期: 2024年1月
- (5) サンプルサイズ: 10,948
- (6) サンプルの属性(年代別)

18-19歳	138
20-29歳	1,886
30-39歳	1,880
40-49歳	2,397
50-59歳	2,520
60-69歳	2,127

ファイナンシャル ウェルビーイング(FWB)に関する調査

- 本調査では、ファイナンシャル ウェルビーイング(経済的(自身の資産管理・資産形成・運用)に良い状態であること)に関する主観評価(現在スコア・将来スコア)をヒアリング
- 「現在に対する満足度」が7以上で「将来に対する満足度」が8以上の回答者を、ファイナンシャル ウェルビーイング度が「**高い**」、「現在に対する満足度」と「将来に対する満足度」のどちらもが0～4の回答者を「**低い**」とし、そのどちらでもない回答者を「**中ぐらい**」として分類

「ファイナンシャル ウェルビーイング度」の定義

【現在に対する満足度】・・・(A)

あなたは、以下の項目について、**現在**どの程度満足していますか。
「経済的(自身の資産管理・資産形成・運用)に良い状態であること」

※「0」が最低満足度、「10」が最高満足度としてお答えください。

【将来に対する満足度】・・・(B)

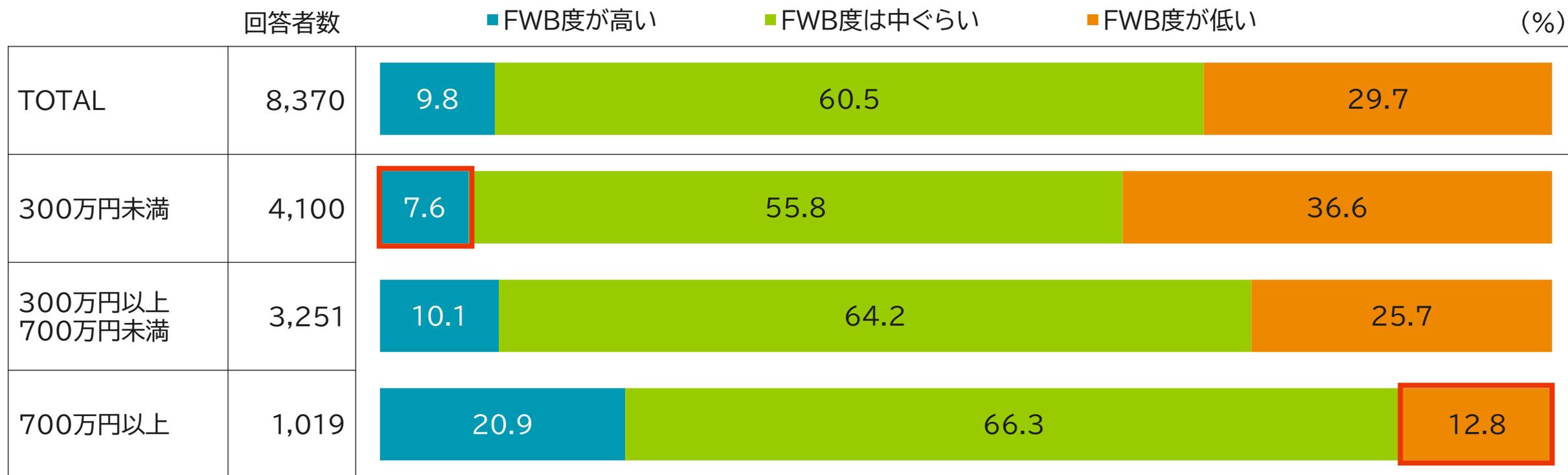
ご自身の「5年後」の生活を少し予想してみてください。
あなたは、**5年後**どの程度満足しているだろうと思いますか。

※「0」が最低満足度、「10」が最高満足度としてお答えください。

ファイナンシャル ウェルビーイング度	条件
高い	(A)が7以上 かつ (B)が8以上
中ぐらい	「高い」「低い」 以外の該当者
低い	(A)が4以下 かつ (B)が4以下

- 年収が高くなると、ファイナンシャル ウェルビーイング度も高くなる傾向がある
- 一方で、年収300万円未満でもファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人の比率が一定程度あることを確認
- また、年収700万円以上でもファイナンシャル ウェルビーイング度が低い人が一定数存在することが判明

図表1 年収区分別 ファイナンシャル ウェルビーイング度の人数分布



*わからない、答えたくない除く

ファイナンシャル ウェルビーイング実現のための4つのステップ

- ファイナンシャル ウェルビーイングの実現には、客観的な資産・所得の向上だけでなく、自律的な家計行動を行うことが重要
- 本調査では、ファイナンシャル ウェルビーイングを実現するための4つのステップに分けて、意識と行動について分析した

図表2 ファイナンシャル ウェルビーイング実現のための4つのステップ



1 年収700万円以上でファイナンシャル ウェルビーイングが低い人はどんな人？

1 学ぶ

1. 金融教育を受けた経験がない人が相対的に多い

2 把握

2. 1か月の収支を把握していない人が相対的に多い

3. ライフプランを立てていない人が多い

4. 公的年金の水準感をイメージできていない人が多い

3 相談

5. 将来設計に外部知見を活用している人が相対的に少ない

4 行動

6. 一時的に収入が減少する場合に備えて、生活資金を準備できていない人が多い

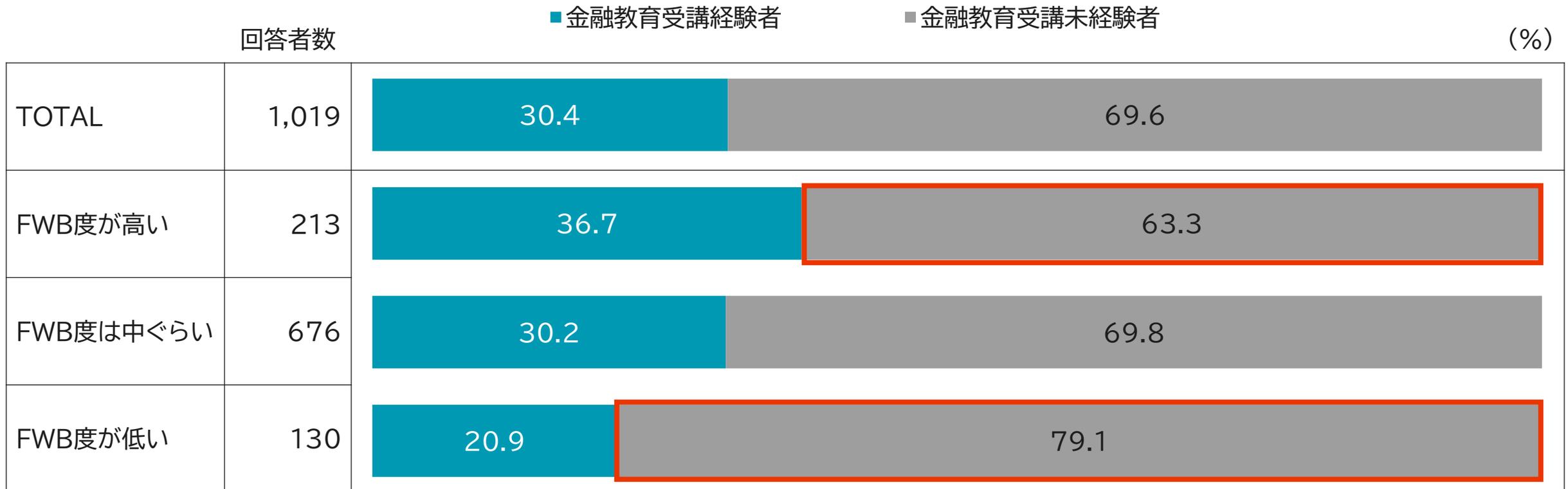
7. 資産形成の取り組みが進んでいない

8. リスク資産を保有していない人が多い

9. 相対的に持ち家率が低い

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が低い人は、相対的に金融教育の受講未経験者割合が高い

図表3 金融教育の経験有無



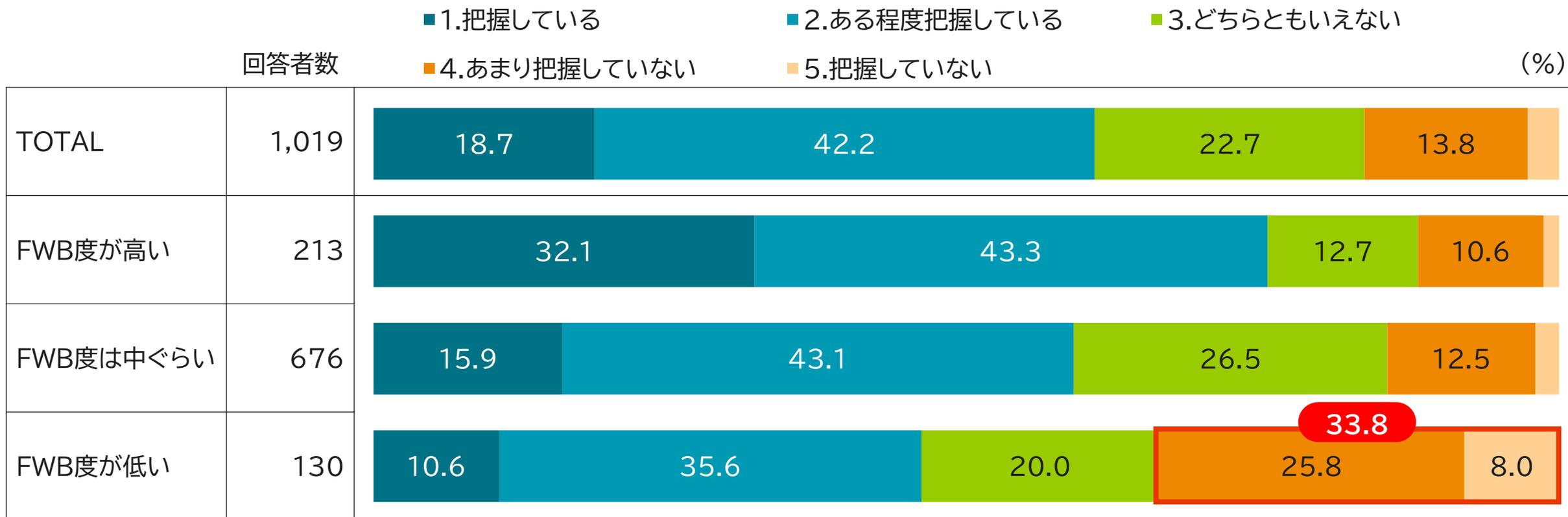
- ファイナンシャル ウェルビーイング度が低い人は、相対的に社会人(働き出してから)の受講経験者割合が低い
- 「高い人」と「低い人」では、社会人における受講経験割合の差は9.9%

図表4 金融教育を受けた時期(複数回答可)

								(%)
回答者数		小学校に入る前	小学生	中学生	高校生	短大生・ 大学生・ 専門学校生	社会人 (働き出してから)	これまでにその ような授業・教育を受 けたことはない
TOTAL	1,019	0.5	6.7	4.7	4.9	3.2	18.9	69.6
FWB度が高い	213	1.2	7.6	4.4	3.2	3.2	25.5	63.3
FWB度は中ぐらい	676	0.2	7.3	5.3	5.4	3.6	17.4	69.8
FWB度が低い	130	0.4	2.5	1.9	5.0	0.6	15.6	79.1

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が低い人は、「収支を把握していない」人が相対的に多い
- 「把握していない」「あまり把握していない」と回答した人の割合は合計で33.8%

図表5 1か月の収支を把握しているか



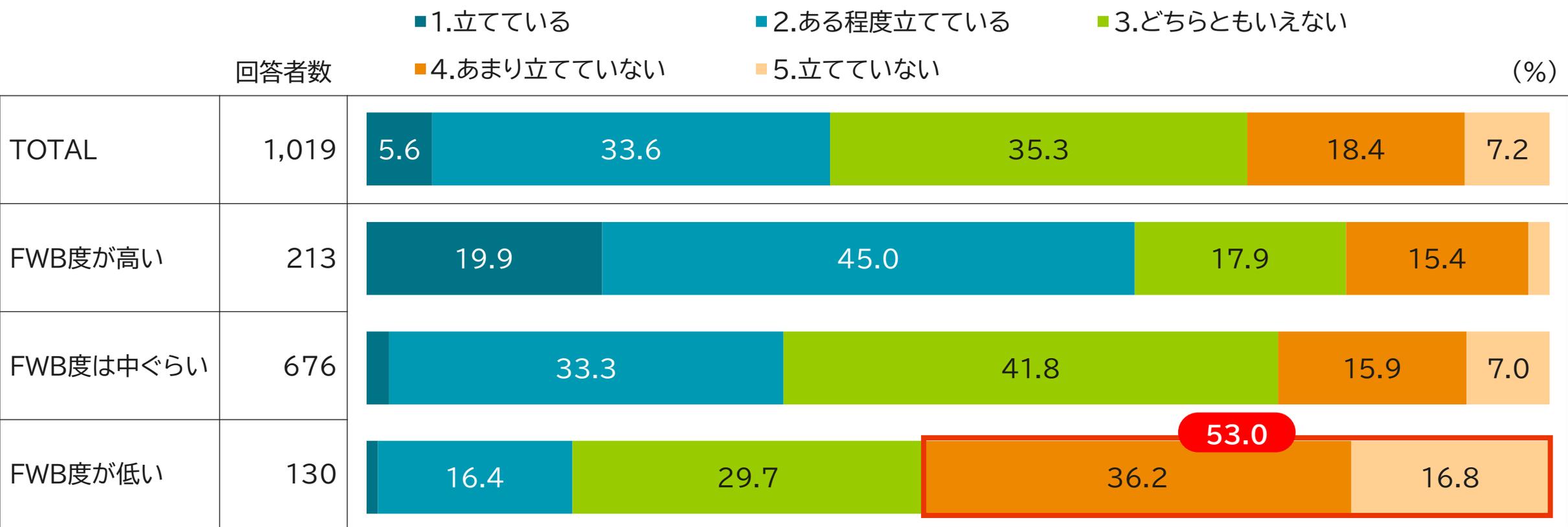
* 5.0%未満はグラフ内表記省略

2 把握

【年収700万円以上×FWB低】ライフプランを立てていない人が多い

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が低い人は、「ライフプランを立てていない」人が多い
- 「立てていない」「あまり立てていない」と回答した人の割合は合計で53.0%

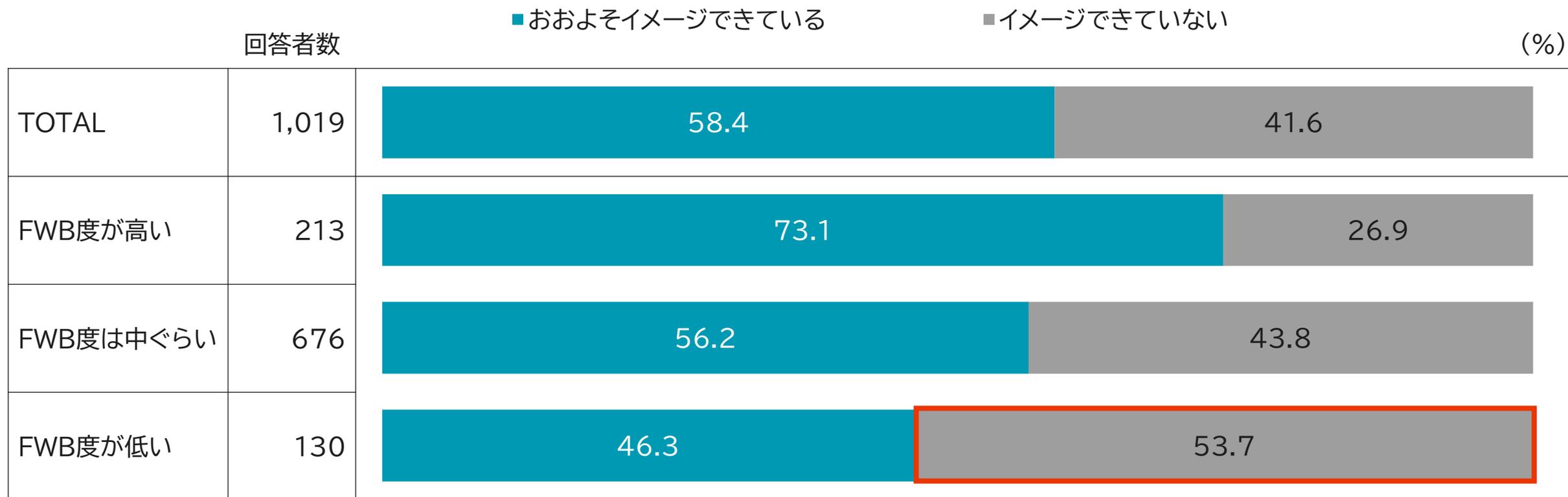
図表6 ライフプランを立てているか



* 5.0%未満はグラフ内表記省略

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が低い人は、公的年金の水準感をイメージできていない割合が半数以上(53.7%)

図表7 公的年金の水準に関するイメージ



*「できている」=「ねんきん定期便」の試算で、おおよそイメージできている、「公的年金シミュレーター」の試算で、おおよそイメージできている、「ねんきんネット」の試算で、おおよそイメージできている、「所属する企業の人事部や年金基金などに確認しておおよそイメージできている」、「年金事務所に相談・確認して、おおよそイメージできている」、「FP(ファイナンシャルプランナー)や金融機関など第三者に相談して、おおよそイメージできている」、「新聞やテレビ、インターネットの報道・ニュースなどで、世の中の平均的な年金受給額は理解している」のいずれか、「できていない」=「受給する年金の種類くらいはわかるが、金額まではイメージできない」、「金額もわからないし、受給する年金の種類もわからない」、「わからない、答えたくない」のいずれか

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が低い人は、適宜、専門家などに相談をしながら、将来設計をしている割合が相対的に低い
- 外部に相談した経験が16.2%にとどまる

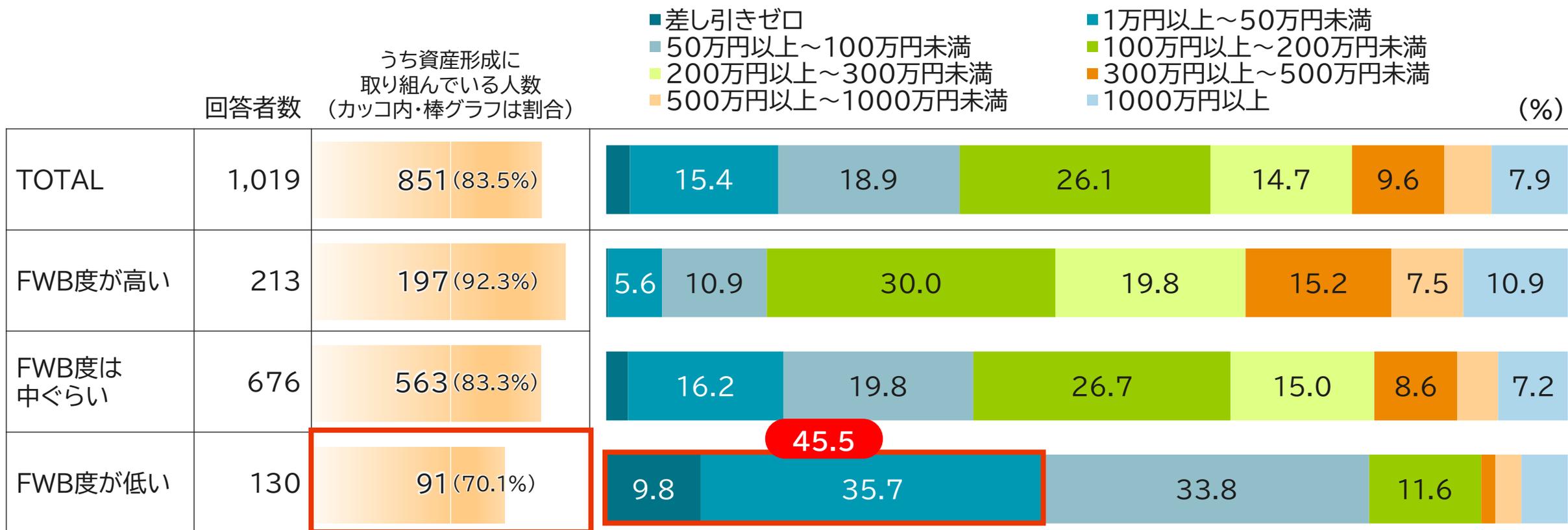
図表8 将来設計における外部知見の活用

- FP(ファイナンシャルプランナー)に将来の生活設計・資金計画について相談したことがある(②除く)…①
- FPならびに金融機関や行政の職員など、いずれにも相談したことがある
- (FP以外の)金融機関や行政の職員などと、将来の生活設計・資金計画について相談したことがある(①除く)…②



- ファイナンシャル ウェルビーイング度が低い130名のうち、資産形成に取り組んでいるのは90名(全体の70.1%)にとどまる
- 資産形成に取り組んでいる人の年間資産形成額は、「年間50万円未満」の回答が45.5%

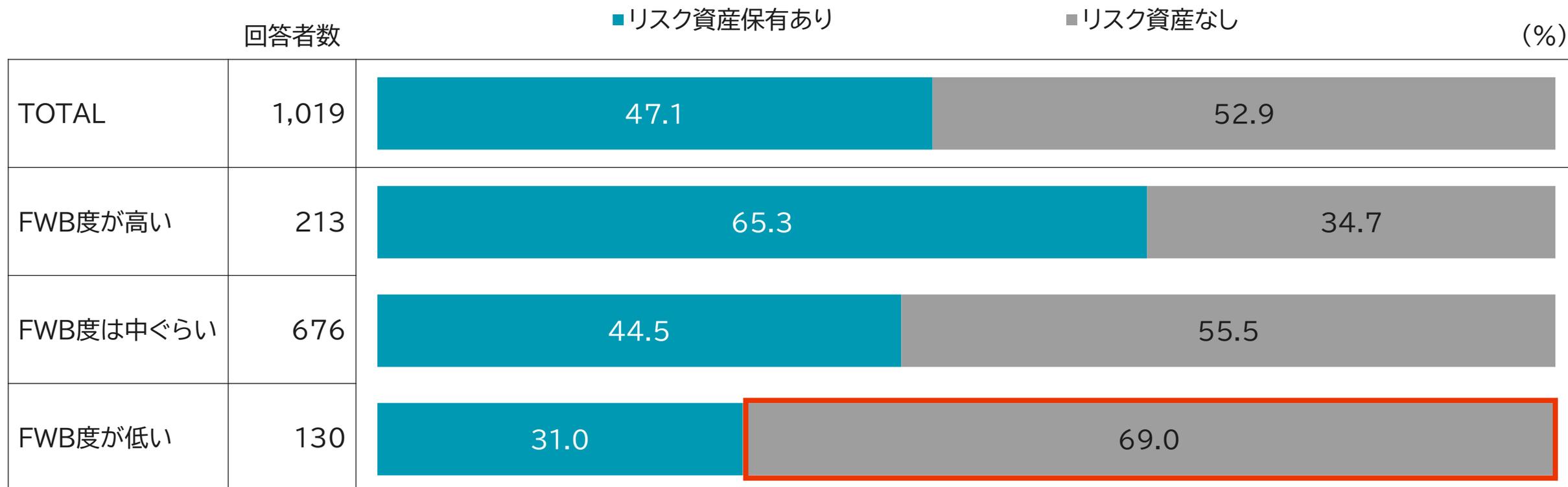
図表10 「資産形成に取り組んでいる人数」ならびに「取り組んでいる人の年間資産形成額」



* 5.0%未満はグラフ内表記省略、わからない、答えたくないを除く

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が低い人は、定期的な資産形成の取り組みの中でリスク資産を保有していない割合が多い

図表11 リスク資産の保有状況(給与天引きなどで定期的に取り組んでいるもの)



- 年収700万円以上の人は66.9%が持ち家だが、ファイナンシャル ウェルビーイング度が低い人は相対的に持ち家比率が低い

図表12 居住形態



2 年収300～700万円でファイナンシャル ウェルビーイングが高い人はどんな人？

1 学ぶ

1. 金融教育を受けた経験がある人が相対的に多い

2 把握

2. 1か月の収支を把握している人が多い

3. ライフプランを立てている人が多い

4. 公的年金の水準感をイメージできている人が多い

3 相談

5. 将来設計をしており、適宜外部にも相談している人が相対的に多い

4 行動

6. 一時的に収入が減少する場合に備えて、生活資金を準備できている人が多い

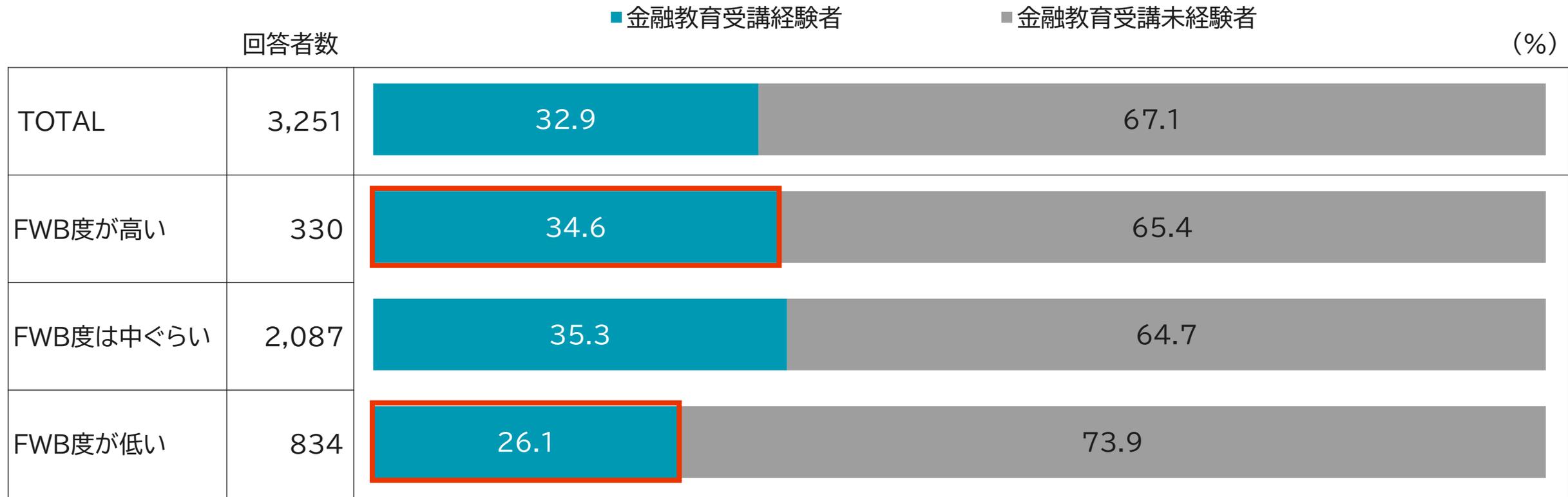
7. 資産形成に取り組んでいる人が多い

8. リスク資産を保有している人が多い

9. 持ち家比率に大きな差はない

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、低い人に比べて相対的に金融教育の受講経験者割合が高い

図表13 金融教育の経験有無



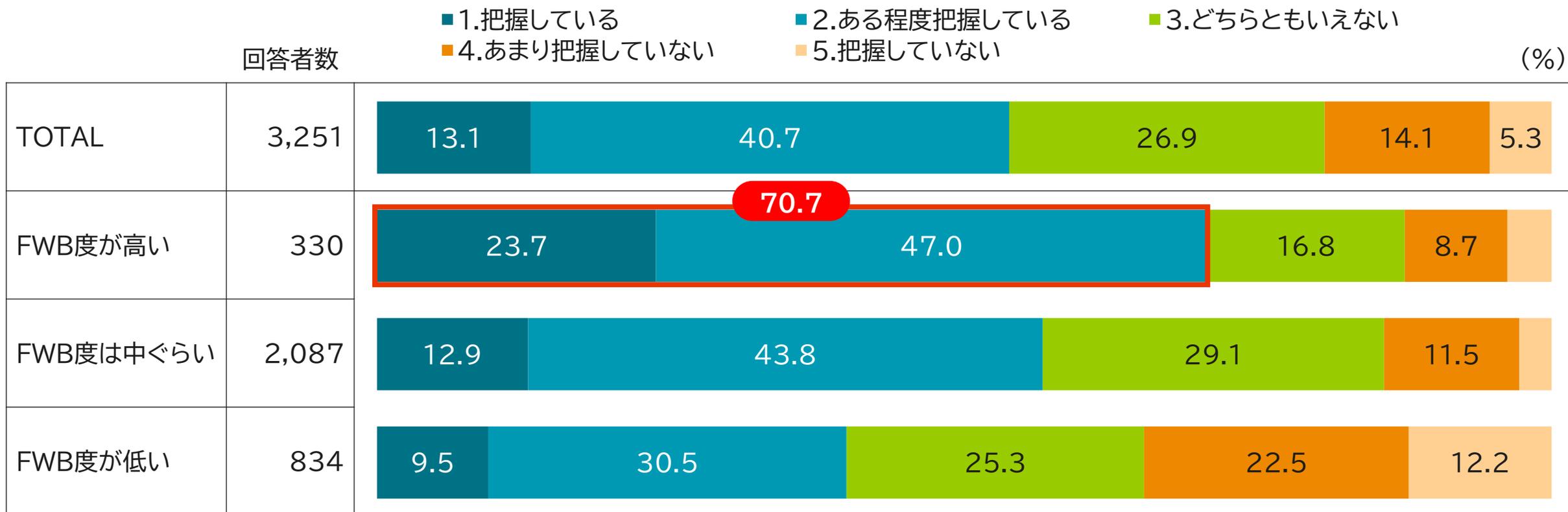
- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、相対的に社会人(働き出してから)の受講経験者割合が高い
- 「高い人」と「低い人」では、社会人における受講経験割合の差は6.2ポイント

図表14 金融教育を受けた時期(複数回答可)

									(%)
	回答者数	小学校に入る前	小学生	中学生	高校生	短大生・大学生・専門学校生	社会人(働き出してから)	これまでにそのような授業・教育を受けたことはない	
TOTAL	3,251	0.9	6.6	6.8	8.6	5.0	17.9	67.1	
FWB度が高い	330	0.9	4.1	6.8	7.4	5.8	20.9	65.4	
FWB度は中ぐらい	2,087	1.2	7.6	8.1	9.6	5.7	18.8	64.7	
FWB度が低い	834	0.1	5.1	3.7	6.5	3.1	14.7	73.9	

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、「収支を把握している」人が多い
- 「把握している」「ある程度把握している」と回答した人の割合は合計で70.7%

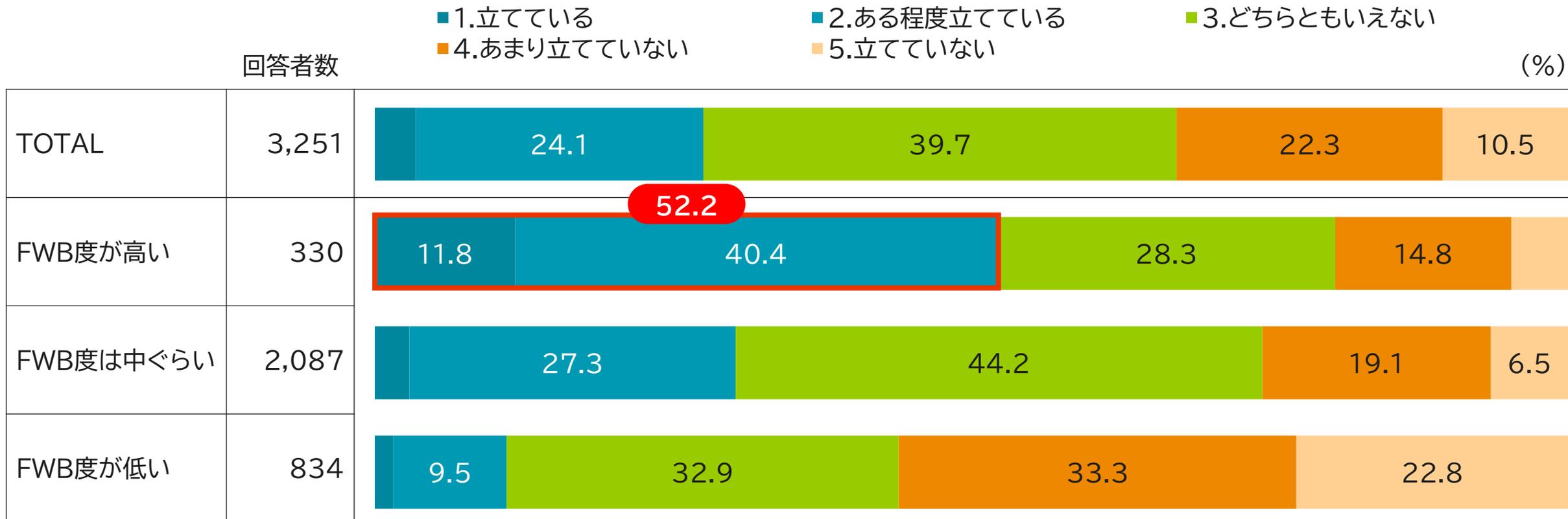
図表15 1か月の収支を把握しているか



* 5.0%未満はグラフ内表記省略

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、相対的に「ライフプランを立てている」人が多い
- 「立てている」「ある程度立てている」と回答した人の割合は合計で52.2%

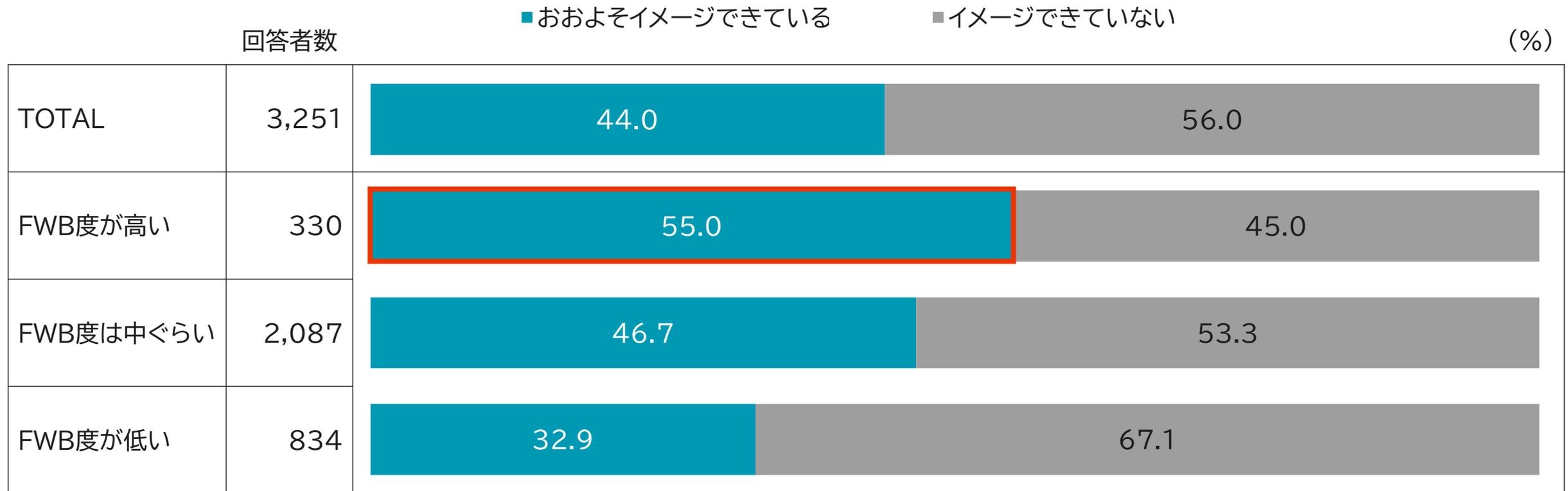
図表16 ライフプランを立てているか



* 5.0%未満はグラフ内表記省略

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人のなかで、公的年金の水準感をおおよそイメージできている割合は55.0%

図表17 公的年金の水準に関するイメージ



*「できている」=「ねんきん定期便」の試算で、おおよそイメージできている、「公的年金シミュレーター」の試算で、おおよそイメージできている、「ねんきんネット」の試算で、おおよそイメージできている、「所属する企業の人事部や年金基金などに確認しておおよそイメージできている」、「年金事務所に相談・確認して、おおよそイメージできている」、「FP(ファイナンシャルプランナー)や金融機関など第三者に相談して、おおよそイメージできている」、「新聞やテレビ、インターネットの報道・ニュースなどで、世の中の平均的な年金受給額は理解している」のいずれか、「できていない」=「受給する年金の種類くらいはわかるが、金額まではイメージできない」、「金額もわからないし、受給する年金の種類もわからない」、「わからない、答えたくない」のいずれか

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、適宜、専門家などに相談をしながら、将来設計をしている割合が相対的に高い
- 全体の14.5%が外部に相談した経験がある

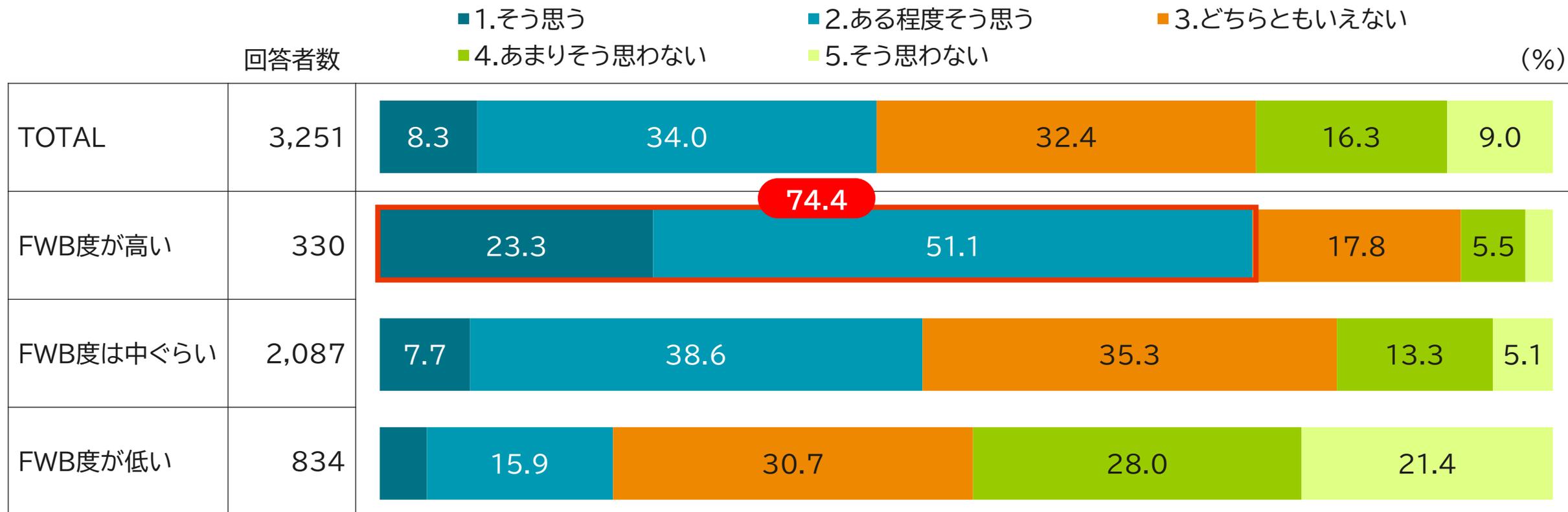
図表18 将来設計における外部知見の活用

- FP(ファイナンシャルプランナー)に将来の生活設計・資金計画について相談したことがある(②除く)…①
- FPならびに金融機関や行政の職員など、いずれにも相談したことがある
- (FP以外の)金融機関や行政の職員などと、将来の生活設計・資金計画について相談したことがある(①除く)…②



- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、「万が一の備えができている」と感じている人が多い
- 「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した人の割合は合計で74.4%

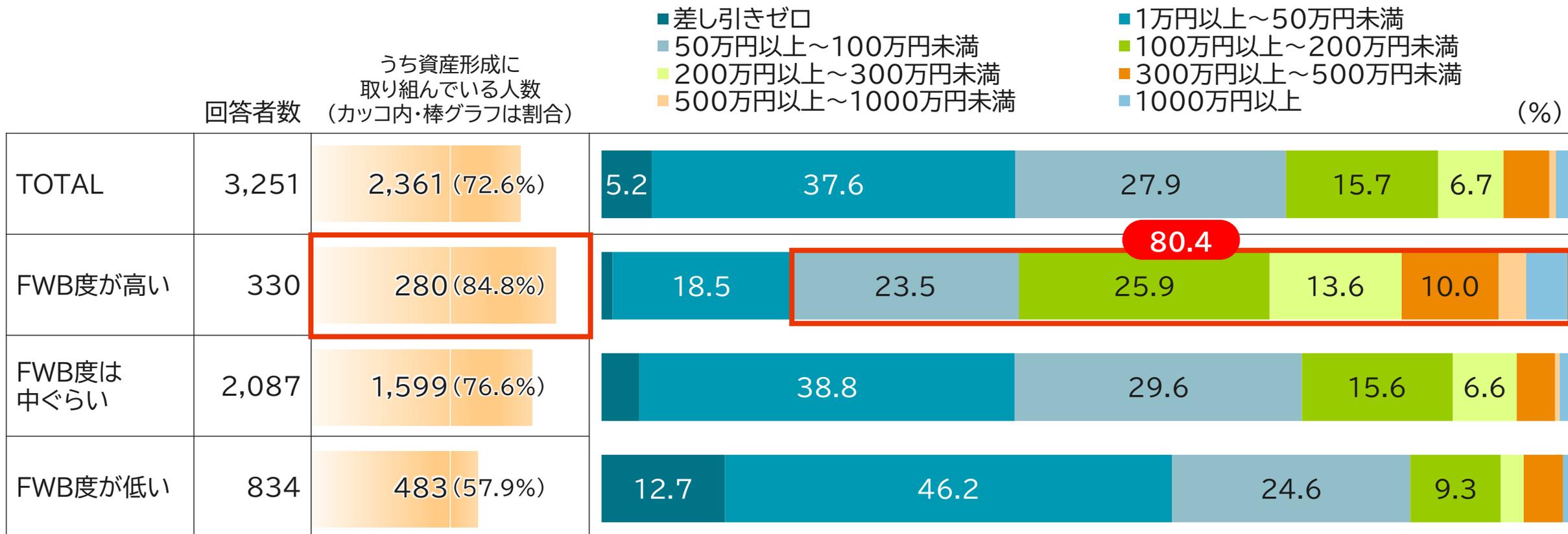
図表19 一時的に収入が減少する場合に備えて、生活資金を準備できていると感じるか



* 5.0%未満はグラフ内表記省略

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い330名のうち、280名(全体の84.8%)が資産形成に取り組んでいると回答
- 資産形成に取り組んでいる人の年間資産形成額は、「年間50万円以上」の回答が80.4%

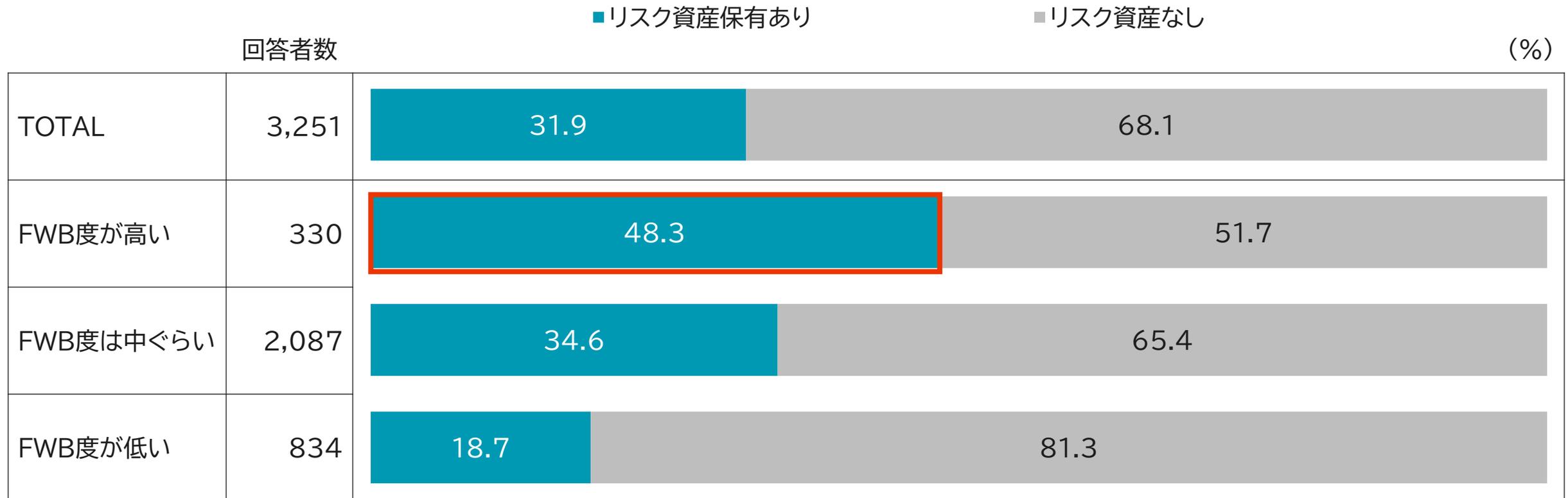
図表20 「資産形成に取り組んでいる人数」ならびに「取り組んでいる人の年間資産形成額」



* 5.0%未満はグラフ内表記省略、わからない、答えたくないを除く

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、定期的な資産形成の取り組みの中でリスク資産を保有している割合が多い

図表21 リスク資産の保有状況(給与天引きなどで定期的に取り組んでいるもの)



- ファイナンシャル ウェルビーイング度による持ち家比率の差はあまりない

図表22 居住形態

■ 1.持ち家(自己所有) ■ 2.賃貸 ■ 3.その他(親世帯の住居(実家)に同居など)

回答者数

(%)



3 年収300万円未満でファイナンシャル ウェルビーイングが高い人はどんな人？

1 学ぶ

1. 金融教育を受けた経験がある人が相対的に多い

2 把握

2. 1か月の収支を把握している人が多い

3. ライフプランを立てている人が多い

4. 公的年金の水準感をイメージできている人が多い

3 相談

5. 将来設計をしており、適宜外部にも相談している人が相対的に多い

4 行動

6. 一時的に収入が減少する場合に備えて、生活資金を準備できている人が多い

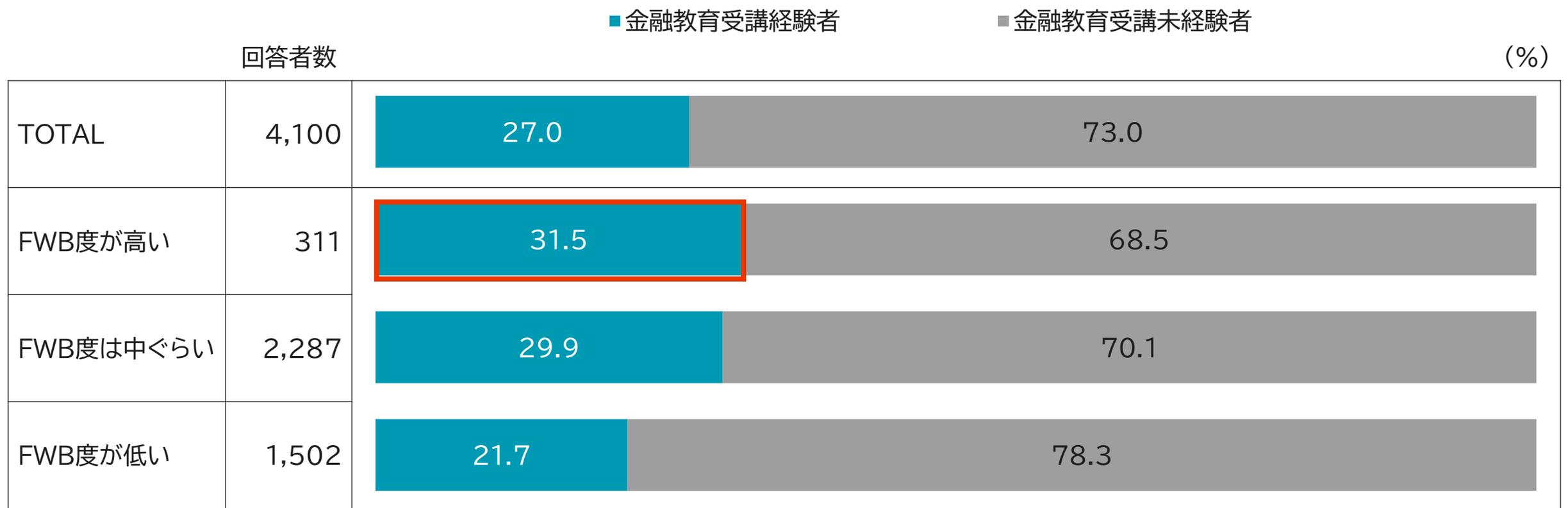
7. 資産形成に取り組んでいる人が多い

8. リスク資産を保有している人が多い

9. 持ち家の人が多い

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、相対的に金融教育の受講経験者割合が高い

図表23 金融教育の経験有無



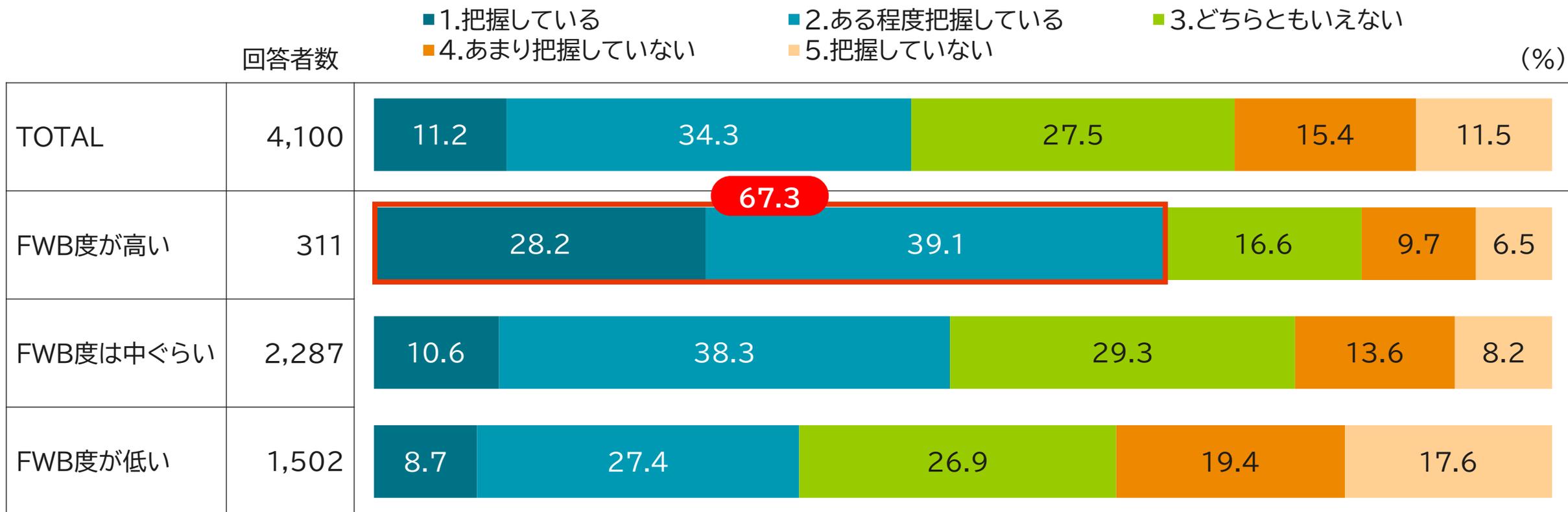
- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、相対的に社会人(働き出してから)の受講経験者割合が高い
- 「高い人」と「低い人」では、社会人における受講経験割合の差は8.2ポイント

図表24 金融教育を受けた時期(複数回答可)

									(%)
	回答者数	小学校に入る前	小学生	中学生	高校生	短大生・ 大学生・ 専門学校生	社会人 (働き出してから)	これまでにそのような授業・教育を受けたことはない	
TOTAL	4,100	1.2	7.3	7.0	8.0	4.4	9.9	73.0	
FWB度が高い	311	1.2	7.4	7.6	10.7	7.2	15.0	68.5	
FWB度は中ぐらい	2,287	1.2	7.9	8.1	8.9	5.4	11.2	70.1	
FWB度が低い	1,502	1.1	6.4	5.3	6.1	2.2	6.8	78.3	

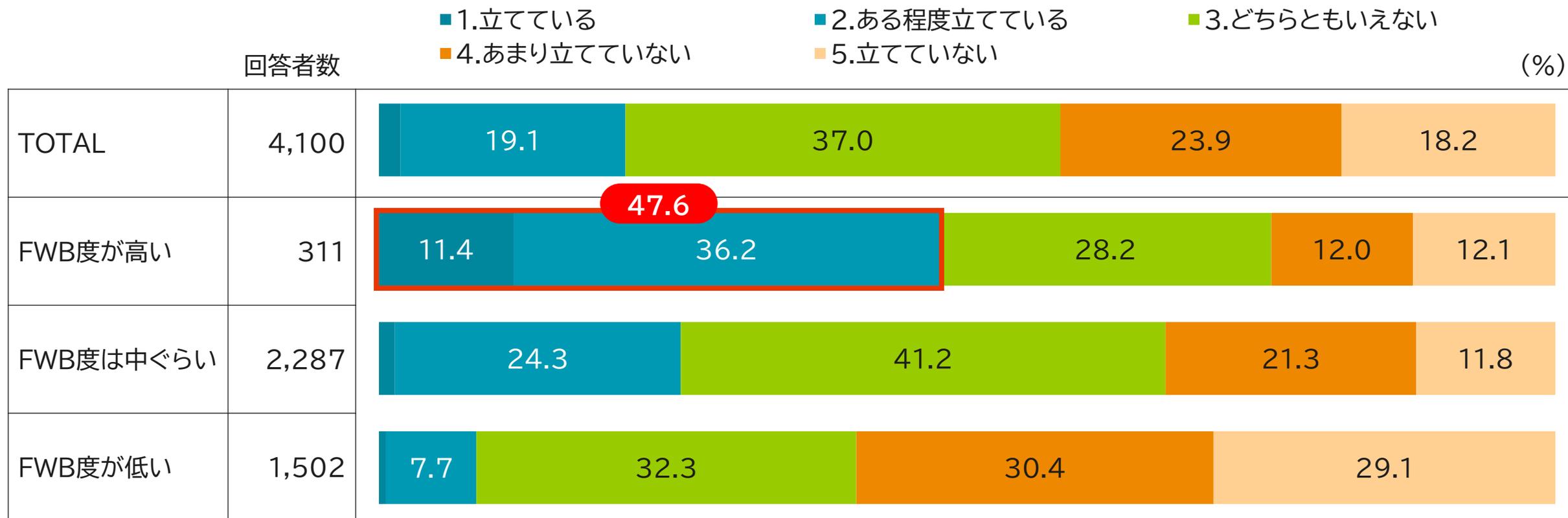
- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、「収支を把握している」人が多い
- 「把握している」「ある程度把握している」と回答した人の割合は合計で67.3%

図表25 1か月の収支を把握しているか



- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、相対的に「ライフプランを立てている」人が多い
- 「立てている」「ある程度立てている」と回答した人の割合は合計で47.6%

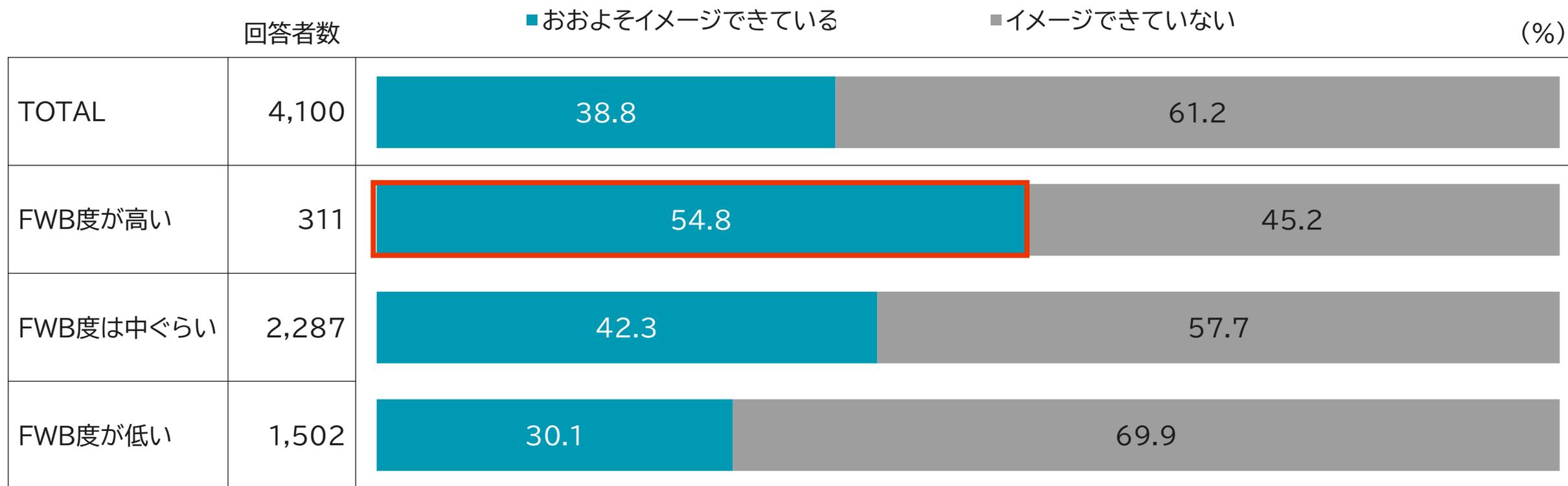
図表26 ライフプランを立てているか



* 5.0%未満はグラフ内表記省略

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人のなかで、公的年金の水準感をおおよそイメージできている割合は54.8%

図表27 公的年金の水準に関するイメージ



*「できている」=「ねんきん定期便」の試算で、おおよそイメージできている、「公的年金シミュレーター」の試算で、おおよそイメージできている、「ねんきんネット」の試算で、おおよそイメージできている、「所属する企業の人事部や年金基金などに確認しておおよそイメージできている」、「年金事務所に相談・確認して、おおよそイメージできている」、「FP(ファイナンシャルプランナー)や金融機関など第三者に相談して、おおよそイメージできている」、「新聞やテレビ、インターネットの報道・ニュースなどで、世の中の平均的な年金受給額は理解している」のいずれか、「できていない」=「受給する年金の種類くらいはわかるが、金額まではイメージできない」、「金額もわからないし、受給する年金の種類もわからない」、「わからない、答えたくない」のいずれか

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、適宜、専門家などに相談をしながら、将来設計をしている割合が相対的に高い
- 全体の14.1%が外部に相談した経験がある

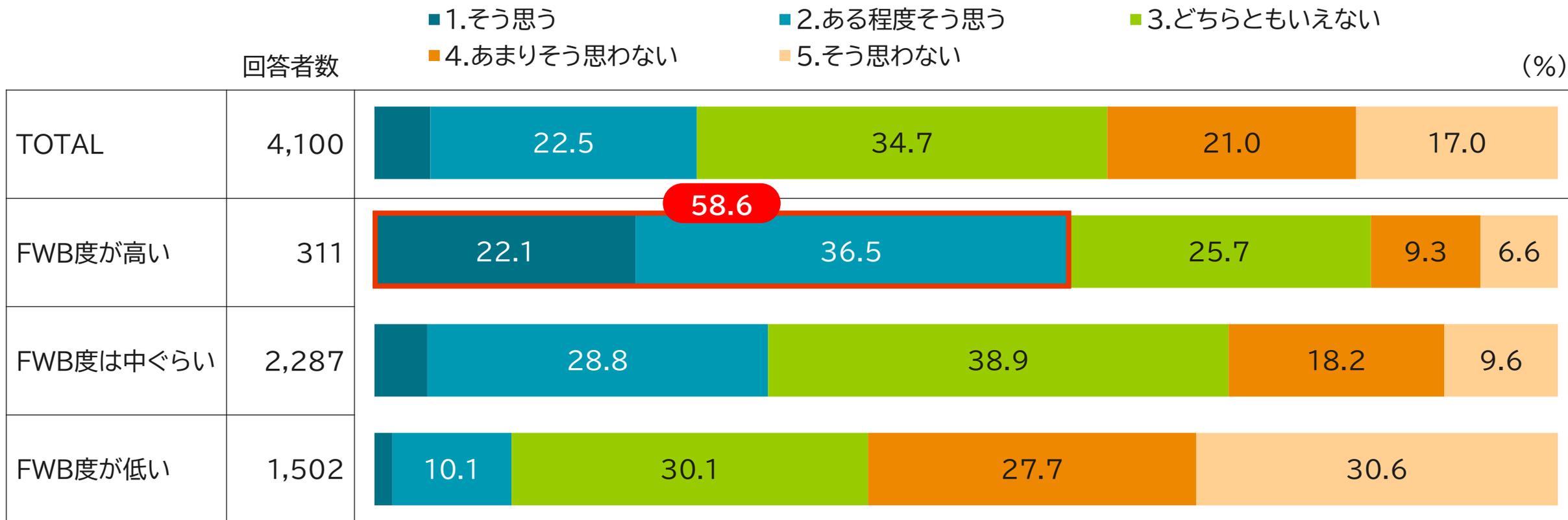
図表28 将来設計における外部知見の活用

- FP(ファイナンシャルプランナー)に将来の生活設計・資金計画について相談したことがある(ただし②除く)…①
- FPならびに金融機関や行政の職員など、いずれにも将来の生活設計・資金計画について相談したことがある
- (FP以外の)金融機関や行政の職員などと、将来の生活設計・資金計画について相談したことがある(ただし①除く)…②



- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、「万が一の備えができている」と感じている人が多い
- 「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した人の割合は合計で58.6%

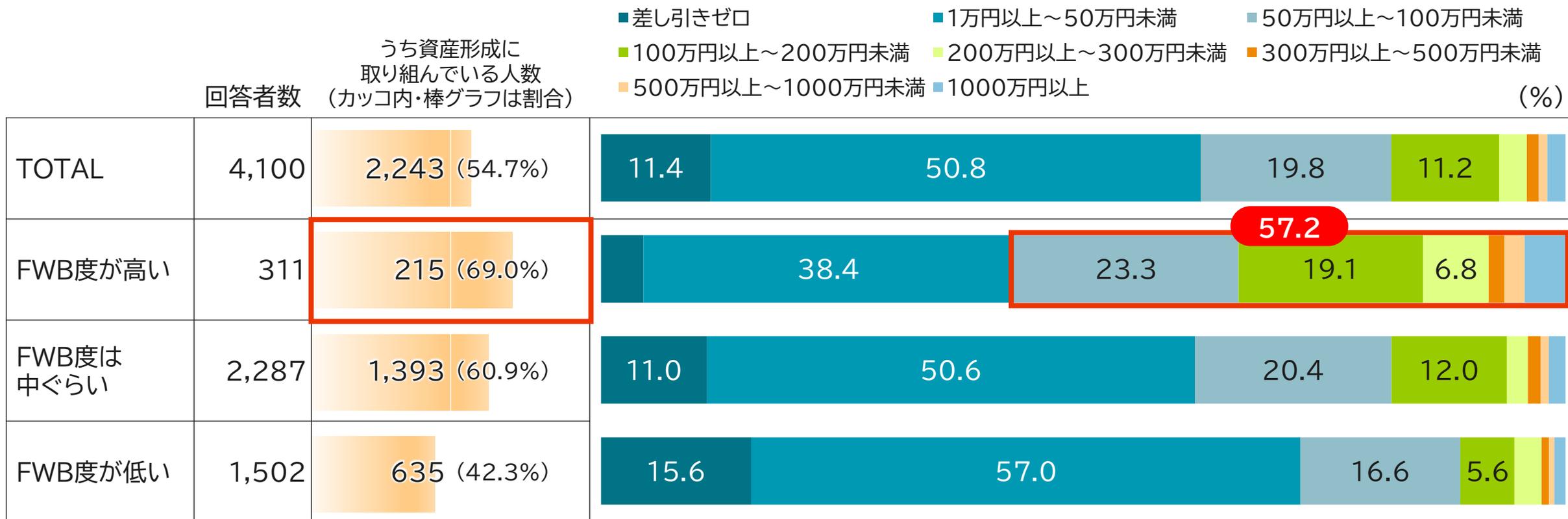
図表29 一時的に収入が減少する場合に備えて、生活資金を準備できていると感じるか



* 5.0%未満はグラフ内表記省略

- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い311名のうち、215名(全体の69.0%)が資産形成に取り組んでいると回答
- 資産形成に取り組んでいる人の年間資産形成額は、「年間50万円以上」の回答が57.2%

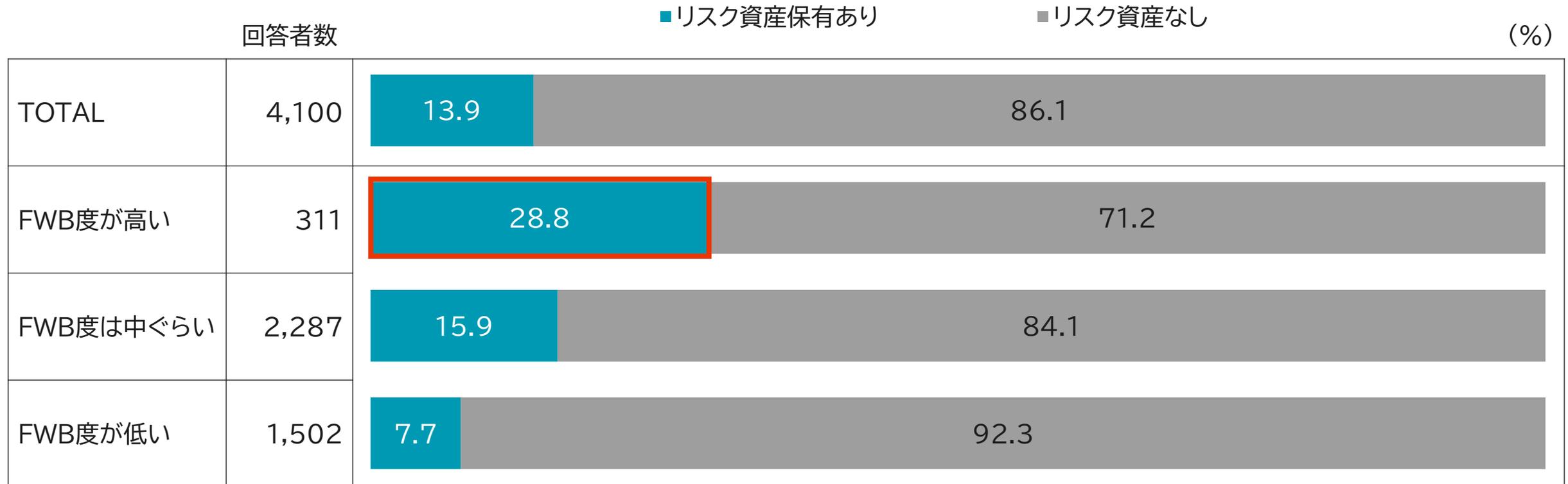
図表30 「資産形成に取り組んでいる人数」ならびに「取り組んでいる人の年間資産形成額」



* 5.0%未満はグラフ内表記省略、わからない、答えたくないを除く

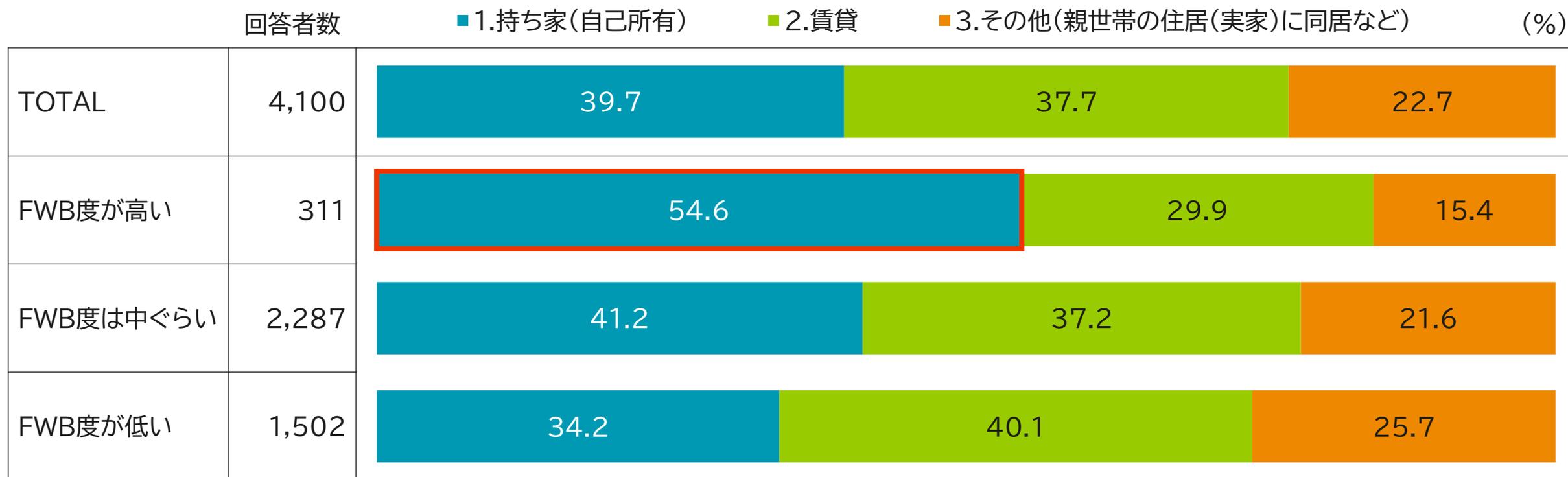
- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、定期的な資産形成の取り組みの中でリスク資産を保有している割合が多い

図表31 リスク資産の保有状況(給与天引きなどで定期的に取り組んでいるもの)



- ファイナンシャル ウェルビーイング度が高い人は、持ち家の比率が高い

図表32 居住形態



- 本資料は、情報の提供を目的として作成しており、具体的な対応についてはお客様のご判断により行っていただくこととなります。お客様のご判断によって行ったご対応の結果生じた損害につきましては、弊社は一切責任を負いません
- 本資料は、作成日において弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成したものであり、その情報の正確性・確実性について保証するものではありません。また、今後の金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が変更となる場合がございます
- 本資料に係る一切の権利は、他社資料の引用部分を除いて三井住友信託銀行に属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。本資料の一部または全部を転載・複製する際は、弊社にご照会くださいますようお願い申し上げます

ご照会先

三井住友信託銀行
三井住友トラスト・資産のミライ研究所
mirai@smtb.jp

作成日:2024年5月1日
564-24-2012